

## 立命館アジア太平洋大学

事業名	ワールド・フェスティバル			
実施期間	2012年11月23日(金)～11月24日(土)			
場 所	23日(金)パークプレイス大分(大分市)・大分市内商店街、24日(土)若草公園(大分市)			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	152 名	2,609 名	150 名	2,911 名

### ＜実施内容＞

立命館アジア太平洋大学(APU)の留学生が中心となり、大分市で「ワールド・フェスティバル」を実施しました。集まった留学生は、18カ国152名。大分市の市民の皆さんに世界の文化を「見て」「聞いて」「食べて」体験してもらい、異文化交流を進めるために企画しました。

11月23日(金)はイベントの広報として、大分市内の商業施設で世界のパフォーマンスを披露し、また大分市の商店街でパレードをしながら「ワールド・フェスティバル」開催のPRをしました。



インドネシア舞踊

24日(土)の「ワールド・フェスティバル」当日は、大分市内の若草公園で5つの企画を実施しました。まず、交流・体験企画として韓国の太鼓を演奏したり、ラクロスというスポーツを大分の子どもたちを中心に体験してもらいました。海外文化理解のワークショップでは6カ国を紹介し、時々クイズを交えて市民の方と交流しました。最も人気だったのは模擬店で、世界18カ国・地域の料理を提供しました。大分県の有名な料理である「だんご汁」に韓国の餅を入れたり、大分県産の鶏肉を使ったミャンマーの春雨スープに人気が集まっていました。大分と世界のコラボレーションクイズ企画も実施し、きのこを混ぜた世界の料理を来場者に目隠して食べてもらい、大分県のしいたけを当てるクイズで会場は笑いの渦に巻き込まれていました。最大の見せ場はカルチャーショーで、中国、インドネシアなどの海外の伝統舞踊に加え、日本の和太鼓や秋田県の荒馬踊り、そして吹奏楽など全15種のパフォーマンスを披露しました。

留学生たちも、自分の出身国を地域の皆さんに紹介できる機会に張り切っており、積極的に来場者の方々と触れ合い写真を撮る姿も目立ちました。子ども連れの家族の方、お友達同士でいらしたお年寄りの方などに、APUの留学生との交流を楽しんでいただけました。

### ＜参加者からのコメント＞

タオ ユーノンさん(台湾)/Ms TSAO Yu-Non (Taiwan)

私は「ワールド・フェスティバル」のリーダーの一人として7月から準備を始めました。APUにはたくさんの方の国の留学生が集まっていますが、大分市からは遠い別府市の山の上にあるので、私たちの自慢のパフォーマンスをお見せして交流する機会がほとんどありませんでした。今回、初めて大分市で留学生の大きなイベントを開催でき、市民の方からステージに大きな拍手をいただくことができ嬉しかったです。18カ国・地域の料理も楽しんでいただき「おいしい」とか「辛い」とか色々な反応がありました。大分県の皆さんはいつも留学生をサポートしてくださいます。その恩返しのためにも今後も交流できる機会を作って、もっとお互いの距離を縮めていきたいと考えています。最後に、「ワールド・フェスティバル」にご支援くださった中島記念国際交流財団様へ、心から感謝申し上げます。

私は3月に卒業しますが、大分市の皆さまと一生の思い出となるイベントができてとても嬉しいです。日本に留学してから大分県の皆さまには、大変お世話になりました。困ったときにいつも助けていただき、私の日本語もどんどん上達しました。ステージでは15種類のパフォーマンスを披露し、子どもたちが一緒に踊ってくれたり、お年寄りのかたも珍しいと喜んでくれ、海外の文化についてたくさん質問をしてくださいました。こうしてコミュニケーションを図ることで、お互いを身近に感じ、留学生でも地域の方の役に立てることがあるのだと思いました。卒業して大分を離れるのがとても寂しいですが、今後私の後輩たちが「ワールド・フェスティバル」を実施する時には、私も”第二の故郷・大分”へ戻ってきて手伝いたいと思います。